

今回の ATAC カンファレンスでもお話されていました。義足のランナーが、パラリンピックで良い成績を収め、気を良くした彼はオリンピックに挑戦したいと言い出した。これが有りか無しかで賛否両論あった。ってな話。「障がい」と言うモノが支援機器によって一般の中で戦える事は有りか無しか・・・。配慮が特別扱いが・・・。僕昔から言ってるんですが、いつの日か支援機器の充実によって、「障がい者」と言われる方々が「健常者」と呼ばれる方々を追い抜く時代がやってくると思うんですよ。自立ホームひまわりの入居者の方は重度の CP ですが、電動車いすの運転技術はえげつない！！指先だけで凄まじい運転技術を持ってるんですよ。いつかロボットの世界がやってきたら・・・あ～楽しみだ！えらく話がそれましたが、スタートラインに立つ！大切な事ですよ☆今後の良い流れのお話です。

久田

第 42 回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

こんなニュースが飛び込んできました。

ちょっと今回は新しい流れについて考えてみることにします。今、日本は障がい者の権利に関する条約の批准に向けて動いています。障がい者の権利に関する条約の経緯と特別支援教育に関するところと、今後の動きについては次のようになっています。

①経緯

- ・平成18年12月 国連総会において採択
- ・平成19年9月28日 署名
- ・平成20年5月3日 発行

②教育に関する規定（第24条等）

- 包容する教育制度（inclusive education system）
- 合理的配慮の提供（reasonable accommodation）

③これからの見直し

可能な限り早期の締結を目指し、必要な国内法令の整備等に係る政府としての対応を検討中。

というもののなのですが、このなかの教育に関する規定の合理的な配慮の提供というところで動きがありました。



添付のように、高校入試でも新しい動きが始まっているのです。うれしいことではありませんか。スタートラインにつけなかった子どもがスタートラインにつけたということです。チャンスはみんなにあるべきです。スタートラインにもつけなくて、社会参加の機会を失っているような状態はあってはならないことだと思います。このチャンスの到来は、機会を与えることになるとともに、甘えてはいけないうというメッセージを発することにもなります。もし、甘えているかもと感じている人がいたら、これを機にいろいろ考えてみましょう。チャンスを生かして、自己実現を目指すことを考えてみるのです。新しい可能性が広がってくるのではないかと思います。応援したいと思います。

坂井聡先生の紹介

（プロフィール）
香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞（著書）
暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンバフメント研究所）など